

香南市は えいところ!

移住者
インタビュー

こじま そういちろう
小島 漱一郎さん(31)
かなこ
可奈子さん(31)

ふたりで来たこのまちで、家族ができた。

きっかけは、山北みかん——ふたりの移住のはじまり



山北みかんとは

香南市香我美町山北地区を中心に栽培されている温州みかん。日照時間が長く、海と山に囲まれた温暖な気候と水はけのよい土壌で育ち、甘みと酸味のバランスの良さが特長です。高知県を代表するブランドみかんとして、県内外で親しまれています。



「いつか高知に住もうと思っていました」そう穏やかに語るのは、小島 漱一郎さん。東京生まれ、神奈川育ち。首都圏で生活しているなかで、心のどこかで「都会ではない暮らし」を思い描いていたそうです。高知を魅力的に思ったきっかけは、母親の出身が高知県だったこと。幼い頃から母の帰省で一緒に何度も訪れた風景、海と山を身近に感じられる空気、人との距離の近さ。そのすべてが、無意識のうちに「大好きな場所、いつか住みたい場所」として心に残っていました。中学生の頃にはひとり訪れるようになるほどの高知好きになったそうです。

妻の可奈子さんは茨城県出身。平野が広がる風景の中で育ち、自然は身近でも、高知の海と山が同時にある景色は新鮮だったと話します。漱一郎さんに連れられ、初めて訪れた時に感じたのは「海はあるけど、どこか茨城と似た雰囲気も。ここならきつと住んでいけるだろう」と思えたそうです。

転機となったのは、結婚前に東京で参加

した高知県への移住相談イベント。香南市のブースで紹介されていたのは、地域おこし協力隊として携わる「山北みかん」の栽培研修でした。幼い頃に祖母から送られてきていた山北みかんの味が記憶によりがえり、「あのみかんを、自分で作ることができたら」——漱一郎さんの中の「いつか高知に」とつながった瞬間でした。可奈子さんも「今、ここで移住の話聞かないとぜったい後悔するよ」と後押ししてくれ、ブースに腰を掛けました。漱一郎さんは移住を現実のものとして考えるようになります。

後日、実際に香南市を訪れ、地域の人たちと話し、畑での収穫を体験し「まちがいたくこれだ」と感じました。漱一郎さんは地域おこし協力隊として香南市へ移住することを心に決めます。「高知に住みたい」という想いは、いつしか「香南市で農家として暮らし、いく」という意志へと変わっていました。そして地域おこし協力隊に応募。みごと採用され、可奈子さんにこう伝えたのです「一緒に来よう」と。